

安城市内景況調査結果 (平成22年10月～12月)

〈 厳しい業況が続く中、業種により見通しに異変あり 〉

1. 調査対象 対象企業数 会議所役員・会員事業所 74企業

2. 調査対象時期 平成22年10～12月期

(1)前年同期(平成21年10～12月)と比べた今期の状況
(2)今期と比べた来期(平成23年1～3月)の先行き見通し

3. 企業数内訳

	製造業	小売・卸業	建設業	サービス業	計
企業数	15	13	21	25	74
構成比	20.2%	17.6%	28.4%	33.8%	100%

安城市内の今期の業況判断DIは、前年同期と比較し△39.2ポイント下降したが、製造業における業況判断DIは唯一プラスとなった。

来期の業況判断DIについてもさらに△6.7ポイントの下降を見込んでおり、回復に向けた先行きは不透明感のある予想である。

【産業別の状況】

- ・製造業では、業況判断・売上高・収益状況が前年同期対比を上回ったものの、売上単価が前同様に△50ポイント以上となった。
- ・小売・卸業では、各項目ともポイントがマイナスとなり、来期の見通しも業況判断・売上高・売上単価・収益状況が△50ポイント以上となった。
- ・建設業では、雇用人員はプラスとなっているが、来期の見通しがさらに悪化し、売上高・売上単価・収益状況が唯一△60ポイント以上となった。
- ・サービス業は、ポイントこそマイナスであるが、全体的に来期の見通しは今期を上回った。

	前年同期比 (前回)	前年同期比 (今回)	来期の 見通し
業況判断	△30.3	△39.2	△45.9
売上高	△25.8	△35.1	△41.9
売上単価	△44.9	△39.2	△33.8
資金繰り	△24.7	△31.1	△28.4
借入難度	△6.7	△8.1	△10.8
収益状況	△24.7	△36.5	△40.5
雇用人員	1.1	9.5	1.4

凡例▶ 30以上 10を超える 10～△10 △10を超える △30以上

		全 産 業									
		製 造 業		小 売 ・ 卸 業		建 設 業		サ ー ビ ス 業			
前 年 同 期 対 比	業 況 判 断	△39.2		6.7		△38.5		△52.4		△56.0	
	売 上 高	△35.1		33.3		△38.5		△47.6		△64.7	
	売 上 単 価	△39.2		△53.3		△7.7		△47.6		△40.0	
	資 金 繰 り	△31.1		△26.7		△38.5		△33.3		△28.0	
	借 入 難 度	△8.1		6.7		△7.7		△14.3		△12.0	
	収 益 状 況	△36.5		13.3		△53.8		△42.9		△52.0	
	雇 用 人 員	9.5		26.7		△15.4		14.3		8.0	
来 期 の 見 通 し	業 況 判 断	△45.9		0.0		△53.8		△61.9		△56.0	
	売 上 高	△41.9		6.7		△53.8		△61.9		△48.0	
	売 上 単 価	△33.8		△26.7		△30.8		△52.4		△24.0	
	資 金 繰 り	△28.4		△13.3		△38.5		△38.1		△24.0	
	借 入 難 度	△10.8		0.0		△7.7		△19.0		△12.0	
	収 益 状 況	△40.5		20.0		△53.8		△66.7		△48.0	
	雇 用 人 員	1.4		0.0		△15.4		14.3		0.0	

※DIとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(好転、やや好転)した企業割合から、「減少」(やや悪化、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上で「増加」25%、「不変」60%、「減少」15%の場合のDIは、25-15=10となる。

今後も、四半期ごとに景況調査を実施いたしますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

なお、詳しい指標は、当所ホームページの「景況調査」のページをご覧ください。